



大西庄之助編
近世 雲櫻 全





東の都も遠
常陸の國を

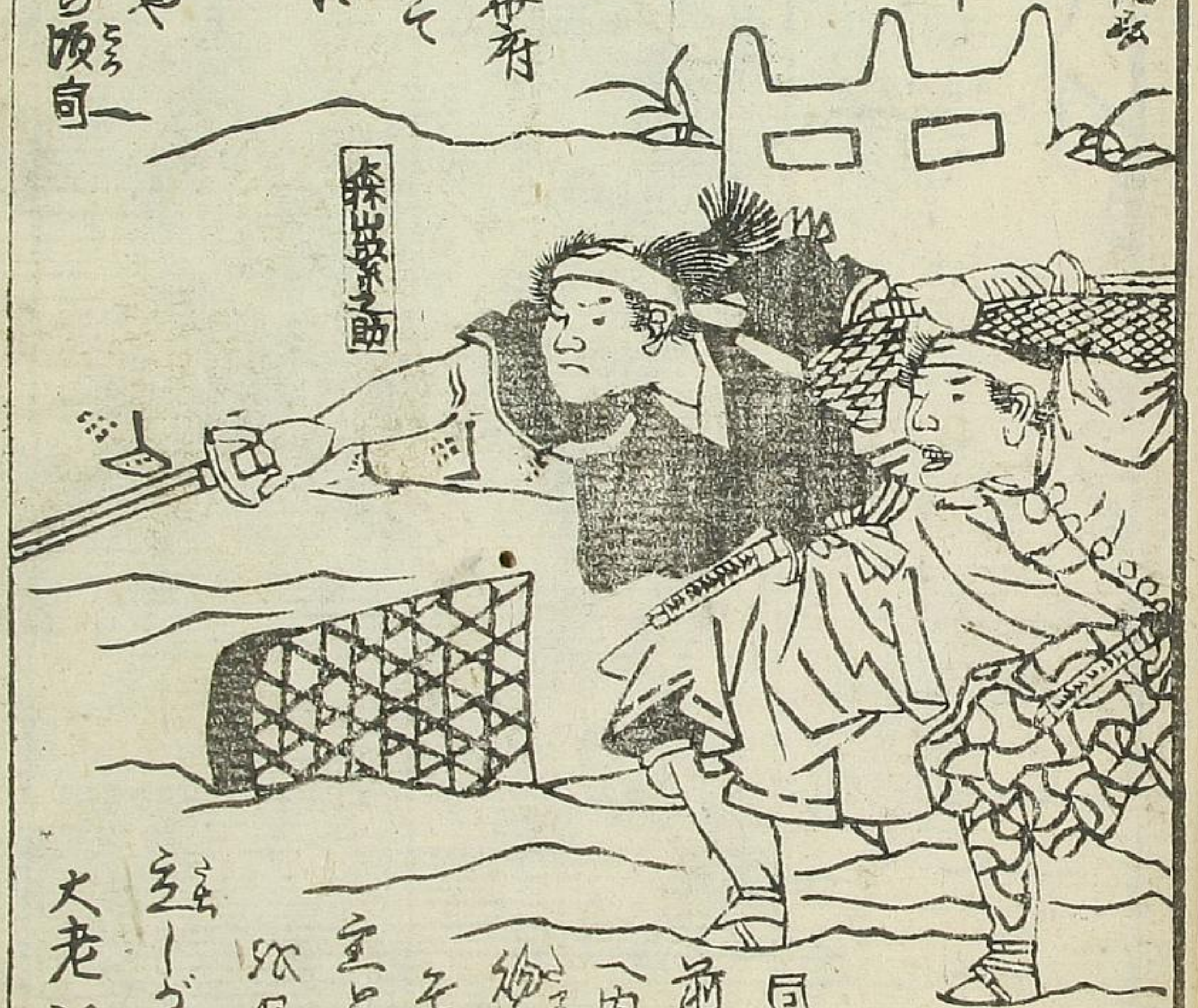


天関和七郎

藤岡五郎

鯉淵要人

飲一多水天祐中納言
海昭公へ時の御
將軍小て天保甲
辰のころふり夷船
の波来よめり
予を接夷を唱ひ
て志くその策と
秋とると蚤も暮存
の者自由倫安よて
良さく採用あらは
ちるふゆあるゆか
文久元年の年をたや
半のちとるゆ一秋の頃自



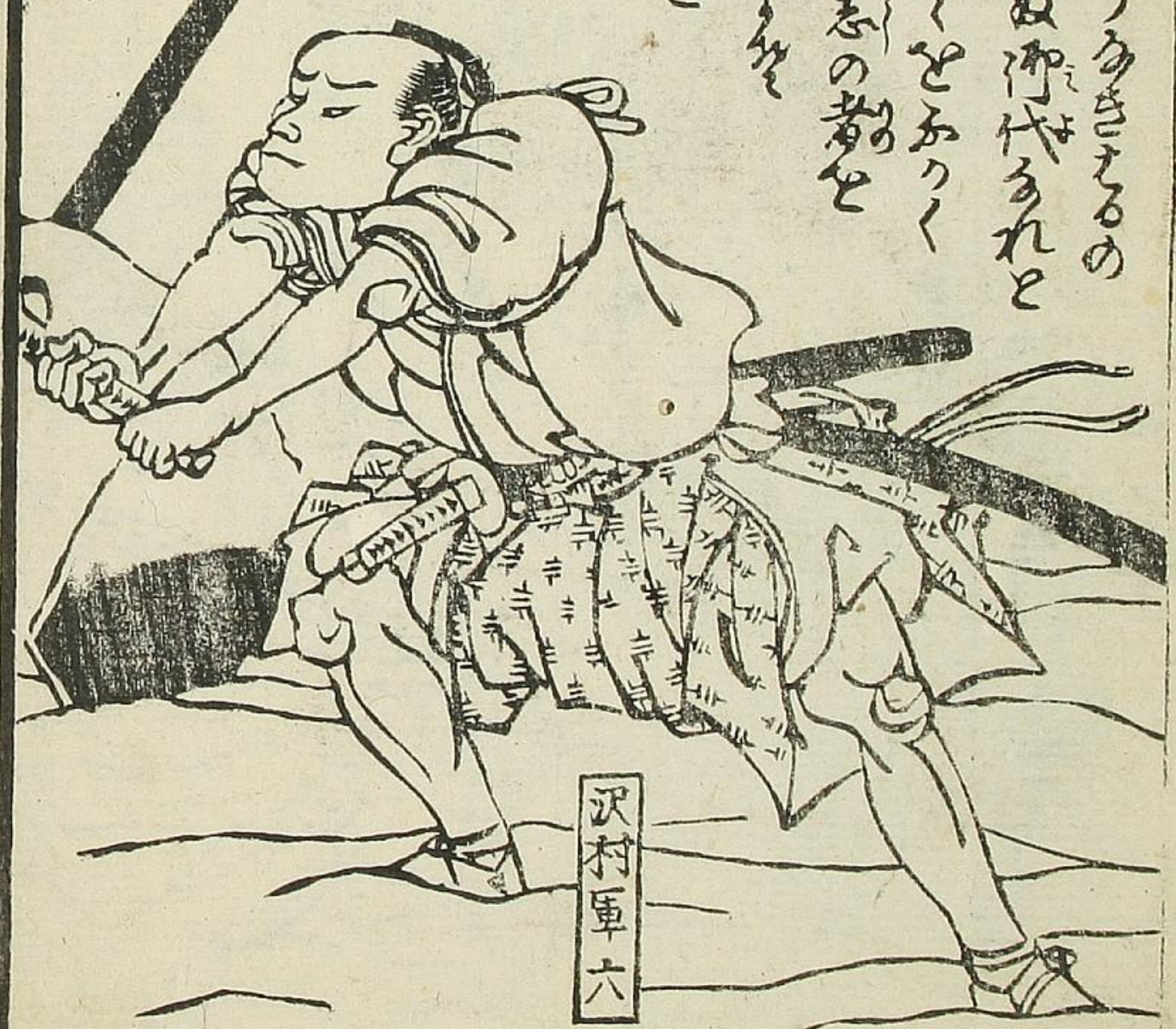
森田五郎

松山弥三郎

同京師より
前中納言殿
一内省と下
物ふよ一書
その旨を
主とて接夷
吹鳴ひ
三つと記の
大老江州



つぎ 争もつれと 勢り多きなるの
 始りも大平の海風たぬ御代なれと
 果敢さるんかおこるつとどありく
 むいけい一安治の同志の者を
 かくらして 既し長岡の者を
 屯集するこゝめてるを
 ちちらんとあまをさり
 西よ新さ同族あさ
 ろつらふふ
 陽邪四方
 の衆人皆大いふ
 動揺るまねれおく
 もこのこと幕府へ聞く



沢村軍六

それの情勢を水戸はあ
 達しふふ景山もあうく
 おどろきうめて 槍の
 あまをさる
 これら衆
 怪あ
 ころ
 しか
 あうて
 後世の由
 徳を思ふを
 つかて 徒らともうかまのう
 て衆んやあさあれ



木林五六郎

つぎ 決後の備も

捕まへー
酒のそらと
一も男の
愉快をまら
むらあつた
いけと賊ー
うーと後ー
いやくも殺益ー
願各事をまらーて後命
の言の事ふ今さう真も
鮫洲や浦ふく風もまら
と慷慨大さあさこれど

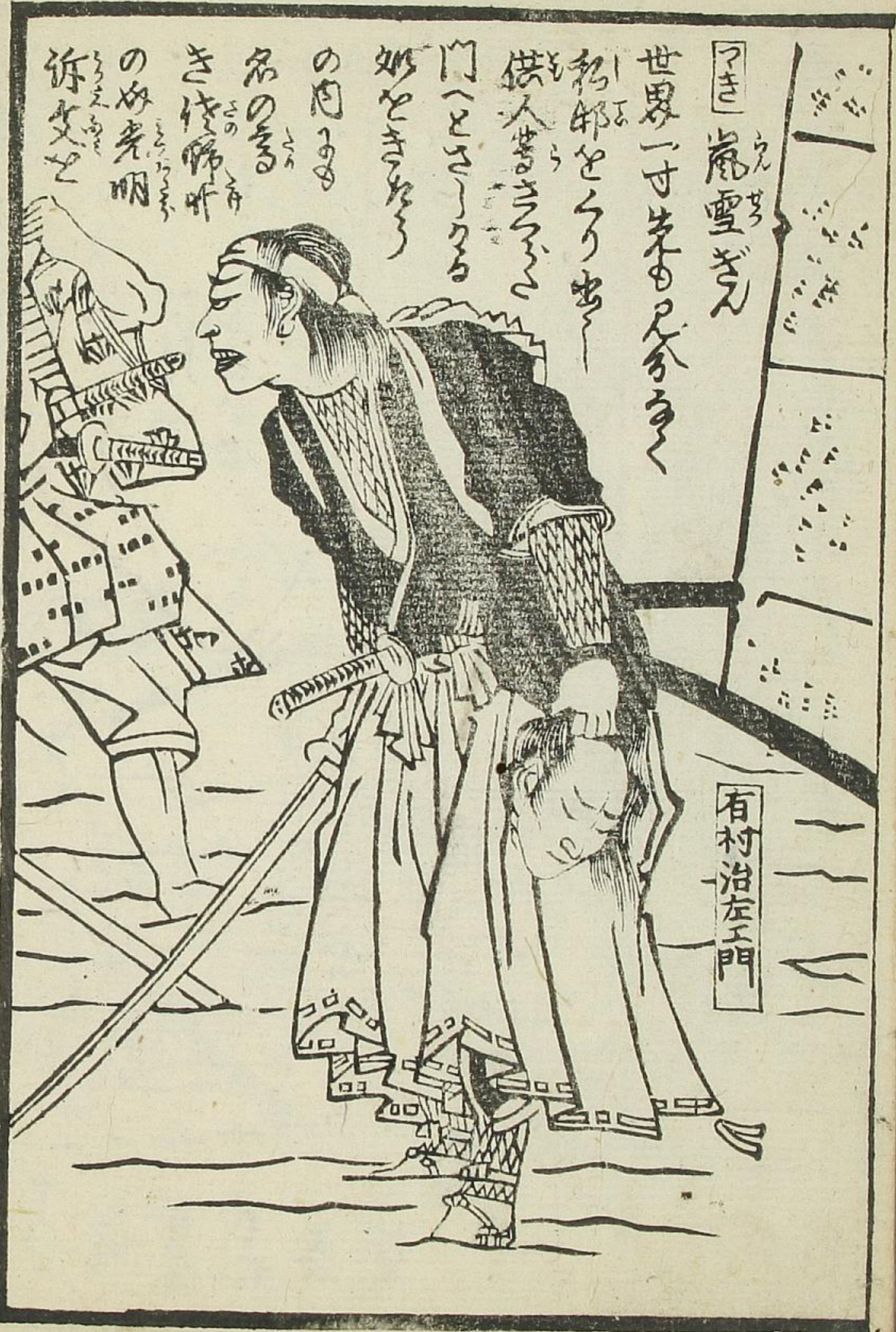


白雲
と給は
あつた赤
きんのはが
合相と
くのぬき
あて今や
あそと
はらふ
あんの
あもつ
はれの

たねその月のしきぬぬら
あつたのい始めの身百の
夜もあつた時あつた
まられんこれまら
義堂のあつた
類堂へ返つた
武士の大船は就
とれり
あつた
くも死
あつた
まらぬら
まらぬら
供ふちりくまらぬら



つぎ
の
あつた
あつた
あつた



つぎ 嵐雪ぎん

世界一寸まもらんま

私邸をくりぬ

供人きき

門へとさし

妙をき

の月

名のき

きや

のゆき

ゆき

有村治左門



竹ふ

接

自

と

らう

お

近

き

さ

る

て

か

これ

き

は

は

は

は

は

は

は

は

は

は

